

開講専攻	授業科目	担当教員	必修 選択 の別	単位数
看護学 ----- 3セメスター 金・2	小児看護学原論	塩飽 仁	必修	1
授業題目	看護の対象としての「子ども」の理解			
授業科目の目的・概要及び到達目標等				
<p>子どもの時代を経験しなかった大人はいません。かつて子どもであった自分自身を振り返りつつ授業に参加し、周囲の子どもや社会のなかで取り上げられる子どもの話題についても興味を持ち、看護の対象としての子どもについて常に考える姿勢を養います。</p> <p>この授業では、絶えず成長、発達している子どもの特徴とそれらに影響を及ぼす諸因子を知り、成長と発達の個人差や疾病や障害に気づくことができるように学習します。</p> <p>授業を通して、子どもの看護は病気や障害を持つ子どもだけではなく、健康な子どもやその養育者をも対象とすることをとらえ、そのうえで子どもの看護の理念について十分に理解できるよう学習します。</p>				
授業計画				
<p>第1回 小児看護学の対象論：「人間はどこまで動物か」、子どもの特徴と小児看護の理念</p> <p>第2回 小児をめぐる諸統計と母子保健対策</p> <p>第3回 成長・発達総論：成長と発達の定義，区分，一般的原則，相互関係</p> <p>第4回 形態的变化1：身長，体重の変化</p> <p>第5回 形態的变化2：頭部，胸部，生歯，骨などの変化</p> <p>第6回 機能的变化1：呼吸，循環，血液，免疫</p> <p>第7回 機能的变化2：消化器，肝，代謝と体温，腎機能と発汗，生殖機能の発達</p> <p>第8回 精神発達1：こころの構造と機能の発達</p> <p>第9回 精神発達2：精神性的発達</p> <p>第10回 精神発達3：共生と分離個体化，自我同一性</p> <p>第11回 運動機能の発達</p> <p>第12回 感覚機能の発達</p> <p>第13回 言語の発達</p> <p>第14回 成長・発達の評価方法：身体発育・運動機能の評価方法，精神発達検査と知能検査</p> <p>第15回 試験</p>				
成績評価の方法及び基準				
<p>成績評価は，出席，レポート，筆記試験をもとに総合的に行う。 （出席点は15%，レポート+筆記試験は85%とする） 正当な理由がなく講義の4分の1以上欠席した場合は筆記試験の受験資格を認めない。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書 1) 奈良間美保ほか：系統看護学講座 専門22 小児看護学 [1], 医学書院，2003 2) 奈良間美保ほか：系統看護学講座 専門23 小児看護学 [2], 医学書院，2003</p> <p>参考書 1) Adolf portmann：Biologische Fragmente zu einer Lehre vom Menschen，1951 （高木正孝訳：人間はどこまで動物か，岩波新書 G121，岩波書店，1961）</p>				